

「SDGs」「脱炭素社会」ネット調査のお願い

崇高な理念と思われがちなSDGs（持続可能な開発目標）の達成は、実は私たち消費者の身近な実践が大きく貢献します。脱炭素社会の実現も一人ひとりの行動変容が欠かせません。

そこで北海道消費者協会は、毎年実施している「消費者問題実態調査」の今年のテーマに「SDGs」と「脱炭素社会（ゼロカーボン）」を選びました。調査結果は、当協会の事業計画に活用させていただきます。それぞれのテーマの認知度や、自身が行っていること、今後取り組みたいこと、目標実現に向けて必要な支援策などを広くお聞きします。

パソコン、スマートフォンから回答できますので、ぜひご協力ください。調査の締め切りは1月31日です。

アンケートページはコチラから⇒

<https://forms.gle/T7ZqZSiRcEVvrX1QA>



QRコード

テーマ概要

【SDGs（持続可能な開発目標）】

世界各地では、紛争や貧困、不平等や差別、さらに気候変動による自然災害などさまざまな問題が発生しています。こうした世界が直面する問題に各国が丸となって取り組む目標が「持続可能な開発目標＝SDGs」です。1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、6「安全な水とトイレを世界中に」、7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、8「働きがいも経済成長も」、9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」、12「つくる責任 つかう責任」、13「気候変動に具体的な対策を」、14「海の豊かさを守ろう」、15「陸の豊かさも守ろう」、16「平和と公正をすべての人に」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」—の17の目標と、169の具体的な目標（ターゲット）が示され、2030年までの達成を目指しています。



【脱炭素社会（ゼロカーボン）】

未来の世代に美しい地球を残すため、温室効果ガスの削減が急務です。国は2020年10月、2050年の脱炭素社会（ゼロカーボン、カーボンニュートラル）の実現を表明しました。フロンなどを含む温室効果ガスを二酸化炭素に換算した場合、北海道は2019年度で6,734万トンを排出しており、森林などの吸収量を差し引き2050年までにゼロにするのが目標です。